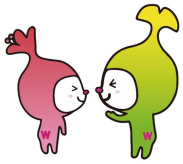

令和5年度　第1回加藤繁美保育ゼミ

～子どもの声と対話する保育実践～

R5．6．9

和光市　保育センター発行

令和5年5月15日に山梨大学名誉教授の加藤繁美先生をお招きして、保育ゼミが開催されました。保育ゼミは、市内保育施設の先生方を対象に年に5回の開催を予定しています。加藤先生の保育ゼミは、昨年度に引き続き、2年目になります！

今年度の大きなテーマは**「実践記録から読み解く、子どもと保育士の対話的関係」**です。子どもの声を聴きとることや子どもの権利を大切にする保育を実践するにはどのような関わりを大切にしていったら良いか。受講者自身の保育実践を語り合いながら保育の分析や振り返りを行います。

第1回の保育ゼミは、加藤先生のご講演を中心にしながら、実践記録の例題をもとにグループディスカッションを行い、実践記録の書き方や分析するポイントについて学ぶ時間となりました。

～加藤先生のご講演内容より～

【子の権利を大切にする保育とは？】
子どもの権利条約第12条の内容を解釈すると、
・自分の声を自由に表現する権利
・自分の声を丁寧に聴き取られる権利
・自分の声を正当に評価される権利
について述べられています。
この保育ゼミでは、子どもの声を大事にする保育とはどういうことなのかを自分たちの実践記録を通して学び、振り返りをしていきます。

記録を書くとは、子どもの声をきちんと聴くこと。子どもの声にどう応えてきたかの記録を残すことで、振り返りができます。

子どもの声を聴いているようで、説教になっていないか？
思いを代弁しているようで、押し付けていないか？
記録を書き、読み直すことで、自分の保育が見えてきます。当たり前にやっている関わりを見直すきっかけになります。

ごっこ遊びの世界（虚構の世界）を豊かにするために、保育者はどのように関わると良い？保育者の言葉が多すぎると、虚構の世界が崩れてしまいます。ごっこ遊びは仲間関係を作っている大切な時間です。

★加藤繁美先生プロフィール★

名古屋大学大学院教育学研究科博士前期課程修了。現在、山梨大学名誉教授。専門は幼児教育学、保育実践論、保育・幼児教育制度論。子どもとの対話を大切にした保育の在り方を研究。

著書は、「対話的保育カリキュラム上・下」（ひとなる書房）、「0～6歳　心の発達と対話する保育の本」（学研教育出版）、「記録を書く人、書けない人」（ひとなる書房）等、著書多数。

～受講者の感想より～

今回受けた研修後、すぐに会議を開いて他の職員に報告、論議をしました。子どもの声を聴いて、質の高い保育をすることを目指して…学んだことを日々の保育にいかせるように研修を受けた私だけでなく、職員全員が共通認識できる１年間にしたいと思っています。ありがとうございました。

（ひだまりの保育園　Ｔ先生）

記録をすることがいかに大事なのか改めて感じました。見返した時に保育の反省など、他職員と意見を交わす大事な資料になります。

日々の保育に追われ、子どもの声を全てリスニングできているかと言われればできていないと思いまが、対話することを意識して保育していきます。そうしていくことで記録もそれほど大変な作業ではなくなると思います。

（ひろさわ保育園　Ｓ先生）

他者の実践記録を題材にすることで第３者の視点で日常の保育に目を向けることが出来た。今後は保育士一人ひとりの実践記録をもとに研修を分析していくので、より身近に感じながら取り組めると思う。

実践記録を行う際、記入者が記録内に登場する保育士の場合は、主観が入らないように注意していきたいと考える。客観的に見ていくことにより、記録が分かり易いものになることを意識していく。また、乳児クラスは会話が少ないので、動作、表情を記録の中にこまかく入れていきたいと考える。

（さくらさくみらい和光　Ｕ先生）

実践記録２つの例題を行いましたが、グループワークでは、それぞれの皆さんの考えが聞けてとても良い機会になりました。

リスニングは子どもの声に耳を傾けること、このリスニングを意識していくことで、保育実践で見えてくるものがありそうです。現場に帰ったら改めて子どもの声を丁寧に聴きとり、尊重した言葉をかえしていきたいと思います。

（みなみ保育園　Ａ先生）

次回の保育ゼミからは、受講者自身の実践記録をグループ毎に語り合い、分析や振り返りを行っていきます。
加藤先生に総評をいただきながら、より実践に活かせるゼミとなるよう、皆さんで学んでいきたいと思います。
第2回日程:7月24日（月）13:30～15:00　和光市役所502会議室でお待ちしています！